



←初日に行われた講演会
↓作品を鑑賞する入館者



横越町出身の洋画家 市村三男三遺作展 人物・静物・風景など、多くの作品を展示

8月8日から16日の8日間（13日を除く）、昭和前半期に東京で活躍した横越町出身の洋画家市村三男三画伯の遺作展覧会が、サンウイング横越多目的ホールで開催されました。

会期初日の8日には、絵画保存修復家の鈴木淳氏による特別講演会が行われ、スライドを多用した初心者にもわかりやすい講演に、参加した70名は聞き入りました。

また、会場入館者は合計687名（1日あたり86名）に達し、短期間で今まで知られていなかった画家の展覧会としては盛況でした。入館者のうち町外の方がおよそ3分の2を占め、町外からも高い関心が寄せられていました。展示された作品は、明るく鮮やかな色彩の静物・風景・人物のほか、社会問題などを取りあつた陰影感・質感があふれる作品など、いずれも入館者を魅了し、大好評のうちに展覧会を終えました。

合併予定市町村も新潟まつりにそろって参加 町の有志、郷土芸能「横越小唄」を披露

8月8日・9日、新潟市内で新潟まつりの「まつり行列」が行われ、8日には、来年3月21日に合併を予定している新潟市を含めた13市町村の郷土芸能がそろって披露されました。

町内の民謡クラブの有志で構成された当町の参加者も、白と紺色のおそろいの浴衣姿で踊りに臨みました。新潟まつりの「まつり行列」に横越町から参加するのは今年で3回目となりました。今年の踊りの会場は、新潟市古町6番町、5番町のアーケード内。メンバーは会場で出番を待っている間、次から次へと登場する万代太鼓や住吉行列などを見学して、まつりの雰囲気を楽しみました。

いよいよ公演時間となり、参加者たちが三味線や太鼓、歌にあわせて、しなやかに踊って横越小唄を披露。踊りは午後2回披露され、多くの見物客から声援や拍手が送られました。



買い物客など多くの人たちが行き交う古町のアーケード内で、横越小唄を披露。

にいがたりバーミーティング2004開催 新潟市信濃川河畔で当町をPR

8月22日、新潟市の信濃川左岸やすらぎ堤（りゅーとびあ周辺）で、にいがたりバーミーティング2004・信濃川フェスティバルが開催されました。

このイベントは、新潟市や横越町など合併予定13市町村と、信濃川・阿賀野川の上流域市町村との交流促進を目的に開催されたものです。

会場では、合併予定13市町村の物産や観光をPRするふれあいマーケットが行われ、当町からは地元特産の長いもを使用したとろろまんじゅうの販売と、町の観光を紹介。また、長野・福島両県を含めた信濃川・阿賀野川流域市町村の特産品などを販売する物産市、ウォーターシャトルの船上から市内を眺める信濃川クルージング、川に関する川柳の入選作品の展示なども行われ、訪れた多くの人たちは、信濃川・阿賀野川の豊富な地域の特色と、信濃川の穏やかな風景を楽しみました。



信濃川のほとりで開催されたりバーミーティング2004
天候に恵まれ、賑わいました。

猛暑にもかかわらず、町内外から多くの人たちが参加。楽しい催し物の数々に、商工大祭は大きく盛り上がりました。



一刻を争う救命救急 講習会で人工呼吸の方法などを学ぶ

8月8日、亀田町消防署横越町分署で、「救急車が来るまでに」をテーマに、救命救急講習会が開催されました。

町内の多くの地域では119番通報があつてから約5分で救急車が到着できますが、心肺停止や大量出血していた場合、救急車が到着するまでの応急措置の有無が生存率に大きく影響することから、緊急時に迅速に対応できるようになってもらうのが目的で、14名が参加しました。

今回は倒れている人を発見した時から救急隊員が到着するまでを想定して、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・止血の方法について、救急隊員の指導を受けながら学びました。意識の確認、胸を両手で押す際の力加減や時間、息の吹き込み方など、一つひとつの動作の意味と順番を確認しながら、何度も繰り返していました。

消防署では「要望があれば消防署や各地域などで開催するので、ぜひ参加してほしい」と呼びかけています。

町の活性化と楽しい時間を過ごしてもらおうと 第2回よこごしまち商工大祭開催

7月31日、役場駐車場を会場に、「よこごしまち商工大祭」が横越町商工会の主催により開催されました。

このイベントは、長引く不況を吹き飛ばし、町の活性化と皆さんに楽しい時間を過ごしてもらうことを目的に昨年開催されており、今回で2回目。

各地区で製作された個性あふれる山車が役場周辺を正午前に練り歩き、大祭がスタート。子どもたちによるダンス、郷土芸能サークルなどによる歌や踊り、新潟のお笑い集団「NAMARA」によるトークなどが行われました。

また、会場内に設けられたそばやたこ焼き、かき氷などの食べ物コーナー、水ヨーヨーや金魚すくいなどの縁日コーナー、フリーマーケットも大盛況。木工教室でプランターの製作を体験したり、空気で膨らませた巨大滑り台で元気にはしゃぐ子どもたちの姿がありました。夕方にはビアガーデンやカラオケが催され、会場内は、不況が飛び去るほどの盛り上がりを見せました。



参加者から「やってみたら難しかった。大変勉強になった。実際にその場でできるか心配」という感想がありました。

お年寄りの方々に楽しんでもらおうと 横雲の里でにぎやかに納涼祭開催

8月8日、阿賀野の特別養護老人ホーム横雲の里で、恒例の納涼祭が開催され、入所しているお年寄りやその家族、地域の方々など多くの人たちが参加しました。

昼間の暑さが和らいだ午後6時、祭り提灯に火が灯った中庭では、沢海育成会の子どもたちによる太鼓や民謡サークル寿会の三味線などに合わせて、横越連合婦人会と横越民謡クラブの方が大きな人の輪になって亀田甚句を踊りました。参加者たちは、手拍子を打ちながら歌や踊りを楽しんだり、すいかやかき氷などを食べたり、おしゃべりをするなど、賑やかな祭りを堪能。中には、踊りの輪の中で一緒に踊るお年寄りの姿もありました。

横雲の里では、入所者・通所者に楽しんでもらおうと、納涼祭のほかにお花見会や敬老会、クリスマス会、お誕生会などの催しを行ったり、子どもたちやサークル団体などが訪れて踊りなどを披露し、喜ばれています。



お年寄りたちは賑やかな納涼祭を心待ちにしていました。